

県政からの風

県議会政務活動報告書
2020.秋号



足利学校大成殿保存修理完成式典

内 容

- ごあいさつ 1
- 新型コロナウイルス感染症対応第5次補正概要 2
- 受け継いだ遺産を次代へ 3
- 被災地へ届け 復興支援の輪 4
- 3連アーチ残し架け替え 5

栃木県議会議員

加藤 正一



人に安心!

暮らしにゆとり!

地域に元気!

ソフト・スマイル・エネルギー!

ごあいさつ

人への投資で生活と医療・経済を支える

9月17日開議の第367回通常会議は10月9日本会議を開催し、初日上程の今年度一般会計補正予算(第5号)814億6,081万円ほか、法人県民税に係る法人税割の税率特例措置の期間を延長する県税条例や県総合運動公園駐車場の使用料を定める都市公園条例、高等学校等修学資金返還の延滞金利率の引下げなど関係条例の一部改正、第5号で32億増額した市町社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付原資等助成を、更に75億円上積みする9月30日追加の補正予算(第6号)など議決し散会となりました。



9月補正予算 会派要望を知事提出

コロナ感染症対策に係る補正予算は、3月の前年度補正措置から7回を数えます。今回はコロナ禍でのインフルエンザ同時流行期を見据え、県民への抗インフル薬タミフルカプセル6万人及びイナビル吸入粉末剤5万4千人分を確保する。

また、感染症指定医療機関へ委託して新型コロナに係る抗原検査を行う一方、新しい生活様式に応じた県道上のバス停改良に取り組むとともに、中小企業がコロナ禍の環境変化に対応するための支援経費を増額しました。

3日間行われた質問戦では、松井正一議員(鹿沼市 4期)が「5選を目指す知事の政治姿勢」や「コロナ禍の人権保護」、「経済回復と雇用維持」など9項目に関し代表質問を、中屋大議員(小山市・野木町 2期)は「インフルエンザ流行期前のコロ

ナ感染症検査体制」と「インフルエンザワクチンの優先接種」、「コロナ禍の県産農畜産物販売促進」等7項目にわたる一般質問に登壇。



松井正一議員 代表質問

最終日には議員提案による「新型コロナウイルス感染症対策」や「治水対策の推進」など、国に求める意見書6件を採択。その中で、今年度から来年度にかけて感染症による経済への影響で、地方財政の著しい減収が予想されることから、私は「地方財政の充実・強化に関する意見書」を作成し、提案説明を行いました。



中屋大議員 一般質問

Withコロナ・Afterコロナに向け、人への投資で生活と医療・経済を支える取組みに努めて参ります!

新型コロナウイルス感染症への対応について（補正予算）

栃 木 県
 令和2(2020)年9月10日

今回の補正予算は、医療提供体制等の強化を図るため、医療機関の相互支援体制の整備や抗原検査体制の拡充に取り組むほか、社会経済活動の維持・活性化に向け、生活支援や事業者への資金繰り支援を充実するとともに、新型コロナウイルス感染症を契機とした地方移住への意識の変化等を踏まえ、UIJターンやワーケーションを促進するためのPRに加え、県外企業のオフィス誘致を図るなど、必要な対策を適切に講じることとして編成したものである。

9月補正予算案(新型コロナウイルス感染症対応分)：740億円（補正予算累計：2,111億円）

医療提供体制等の強化

72億円

◇医療提供体制の強化（62億円）

- ☆重症患者を受け入れる医療機関相互の遠隔医療支援体制の整備に対する助成
- ☆入院協力医療機関における空床補償、個人防護具の整備等
- ☆患者の対応に当たる医療従事者への応援金の支給
- ☆患者を受け入れた入院協力医療機関等への協力金の支給

◇検査体制・感染拡大防止対策の強化（10億円）

- ☆秋冬における抗原検査体制の拡充
- ☆感染管理認定看護師による社会福祉施設や病院等への指導・助言等
- ☆障害者支援施設等におけるロボット等の導入に対する助成

社会経済活動の維持・活性化

663億円

◇生活に困っている世帯への支援（32億円）

- ☆緊急小口資金等の貸付に対する助成

◇県内事業者への支援（626億円）

- ☆中小企業への資金繰り支援
- ☆サブライチエーン再構築のための生産設備の整備等支援
- ☆新型コロナウイルス感染症対応のための機械装置の導入等支援
- ☆地域公共交通事業者への支援金の支給

◇新しい生活様式を踏まえた社会経済活動の活性化（4億円）

- ☆UIJターン・ワーケーション促進のためのPR等
- ☆お試しサテライトオフィスの設置促進
- ☆県外企業のオフィス誘致
- ☆舞台芸術の発表及び動画配信等
- ☆地域連携ICカードの導入に伴うバス停改良

◇農業生産を支える人材の育成（1億円）

- ☆農業高校生が農業技術を習得するための研修用機械の導入

新型コロナウイルス感染症対策予備費

5億円

9月補正予算案総額：815億円

受け継いだ遺産を次代へ

史跡足利学校大成殿保存修理



孔子坐像

1668年に創建された史跡足利学校(昌平町)の大成殿は、現存する日本最古の孔子廟です。老朽化に加え、東日本大震災の影響により北東側に傾いていたことから、2017年度東京藝術大学へ委託し、現況及び耐震基礎診断調査を実施。



足利学校大成殿

翌年度から着手した保存修理は瓦屋根を葺き替える一方、当初の予想より木部の著しい腐朽が判明し、柱根継ぎの増加や木材の交換が必要となる大掛かりな工事となった。また、耐震性においてもケーブル等の補強を要するなど、1972年に行った前回から約半世紀ぶりの修理は、まさに「平成・令和の大修理」です。

修復費用は約1億2,986万で、文化庁より重要文化財保存・活用事業補助金約4,749万円を充当。

工事中に発見された「稲荷大明神神像奉納由来記」の一部には、1554年に第7世座主の九華が書いたもので、後半部分の「八幡大菩薩合祀記」は足利

学校に伝世されていたが、前半部分は所在不明だった。内陣中央東側の敷居下から発見され、裏面に描かれた稲荷の本地仏となる「ダキニ天」の画像を奉納した由来が記される。足利学校の歴史を具体的に表す貴重な資料であり、思わぬ大発見となった。

コロナ禍で延期していた完成式典が8月29日(土)行われ、保存修理の完成を祝うテープカットと大成殿の額の除幕式があり、私も地元県議を代表し祝辞を述べた次第です。

学校内遺跡図書館では9月まで林羅山や吉田松陰、高杉晋作ら江戸中期の来訪者を紹介する前期特別展が行われ、現在は明治以降の来訪者である大隈重信や渋沢栄一を紹介する後期展示を11月29日まで開催している。

先人から受け継がれた貴重な文化財を保護・活用して、その魅力を次代へも発信!



式典あいさつ

被災地へ届け 復興支援の輪

7月豪雨災害カンパ活動

7月上旬から降り始めた大雨は、九州、中部、東北地方など広範な地域において、多くの人命や家屋、ライフライン、地域の産業等へ甚大な被害をもたらした。

死者は8月7日現在、熊本県の65名ほか行方不明者4名を含め10県で86名、住家被害は同8日までに全壊283棟、半壊658棟、床上・床下浸水は16,400棟を超える。



救援カンパ呼びかけ

連合栃木わたらせ地域協議会（篠崎達郎議長）では8月2日（日）、「令和2年7月豪雨」による被災者支援へ街頭でのカンパ活動を実施。わたらせ地協では、これまでも自然災害等における被災地域への支援活動を行って来ている。

昨年も10月の台風19号により、県内各地で大きな

被害をもたらした令和元年東日本台風被害に対し、佐野・足利でのボランティア活動や街頭カンパを行った。今年はすでに新型コロナウイルス感染症対策を目的に、佐野・足利両市に対し寄付を行う一方、福祉施設にマスクを提供。



善意のカンパ協力

当初、7月中に予定した鏝阿寺（家富町）境内をお借りしての街頭カンパは、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、一度延期しての取組となった。しかし、首都圏を中心にコロナ感染者数が高止まり傾向にあり、訪れる人も多くはないものの、呼びかけの趣旨を知ると快く募金に協力頂きました。

暑い中での4時間に及ぶ活動に際し、地協加盟労組からの参加者18名は慣れないフェイスガードやマスクをして、声を抑えつつ募金を呼びかけ。「ご苦労さま」と声をかけ協力頂いた方や、走り寄って募金する子どもに励まされての心地よい活動となった。



救援カンパ活動参加役員

3連アーチ残し架け替え

足利市中橋整備



中橋全景

2015年9月の関東・東北豪雨災害により鬼怒川の氾濫被害などを受け、翌年7月から国・県・市で検討を重ねてきた中橋架け替え事業に関する基本方針が7月31日公表された。



中橋左岸

1936年完成した中橋は橋長295m・幅員11mで、その後、渡良瀬川の堤防かさ上げに伴い橋の両側接続部が堤防より2～3m低くなっている。老朽化もあって国の重要水防個所として危険度Aランクに指定され、3年前に策定した渡良瀬川河川整備計画でも本流で唯一、「架け替え」対象に挙げられていた。

過去にも整備が検討されたが、橋の北側はJR両毛線を高架でまたいで県道桐生・岩舟線に接道することから周辺住民の理解や、3連アーチの形状による景観保存を望む声もあり、事業化までには至らなかった。治水対策などから長年の懸案だった中橋架け替えが、今回の三者による合意を受け、早ければ来年度

にも事業計画化の見通し。

基本方針では現在の位置に新橋を架け、幅員は20m前後に広げ、堤防をかさ上げする。新橋整備に先立ち、下流側へ新たに橋脚を設置し現橋上部をジャッキアップして移動させ、歩行者・自転車専用として活用。

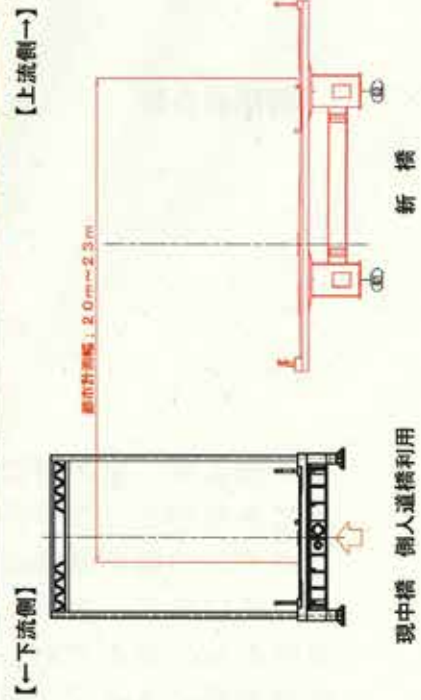
今後、周辺住民の理解促進を図り、2年後の着工を目指す。総事業費は国・県合わせ約110億円、工期は5～6年を見込む。着工時は車道用の仮橋は設置せず、中橋を挟む田中橋と渡良瀬橋への迂回を促す。



中橋右岸

東武線足利市駅から望む渡良瀬川と街並み、さらに織姫神社を含む北部の山々の景色にマッチした市民のアイデンティティーである中橋が、水害対策とともに生まれかわる。

(中橋架替イメージ (案))



現時点の検討途中の物であり確定ではありません。

県政に関する要望調査

※貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

お名前

連絡先

◎皆さんのご意見をおまちしております。

栃木県議会議員 **加藤 正一**

■住所：〒326-0143 栃木県足利市葉鹿町500-3

■事務所：TEL (0284) **62-0054** FAX (0284) **62-8253**

HP : shoichi-kato.ecnet.jp E-mail : kato3211@wativ.ne.jp